

佐藤清明資料保存会会報・別冊 ①

第5回 清明を読む会

テーマ「岡山県下のキクザクラについて」



佐藤清明資料保存会

2020. 2. 15.

清明を読む会

「岡山県下のキクザクラについて」

も く じ

1	名花「岡山の菊桜」	1
2	三好学博士の『菊桜』記事より	5
3	三好学博士の論文より	5
4	六高の菊桜	6
5-1	山陽新聞記事より平成16年4月25日	7
5-2	六高の現在のキクザクラ	8
6-1	佐藤家キクザクラ	9
6-2	佐藤家キクザクラの樹勢回復	10
7-1	後楽園のキクザクラ 山陽新聞記事より	11
7-2	後楽園のキクザクラ (現在)	12
8	後楽園の旭川土手のキクザクラ	13
9-1	岡山大学のキクザクラ その1	14
9-2	岡山大学のキクザクラ その2	15
10	原田勝氏の水島倉庫横のキクザクラ	16
11-1	高梁城南高校のキクザクラ	17
11-2	高梁市中央公園のキクザクラ	18
12	たけべの森のキクザクラ	19
13	高岡神社のキクザクラ	20
14-1	奈義町浅野家のキクザクラ その1	21
14-2	奈義町浅野家のキクザクラ その2	22
15	里庄町歴史民俗資料館の前庭のキクザクラ	23

「岡山県下のキクザクラについて」

生宗脩一

一順宮様の御紋章になったー

1 名花「岡山の菊桜」 佐藤清明 岡山博物同好会 昭和27年10月

菊桜は八重桜の一種であるが、極めて珍しい幾多の美点を有していて、数ある桜の品種中でも実に異色のものに属する。

この桜が池田家の備前に伝わり、そして順宮様の御紋章になっており、その順宮様が今回また菊桜の里、備前岡山の池田家に御嫁入りになることは誠にただ奇縁と申し上ぐる他は無い。よりにここに菊桜について以下概要を記述してみたい。

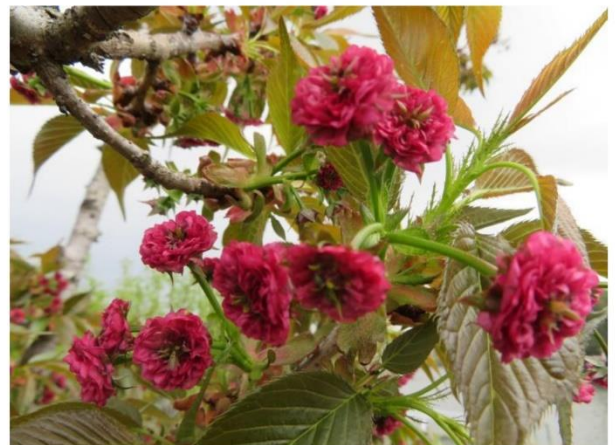
菊桜はまず第一に花期の甚だ長い桜である。桜といえば大抵、一時にパッと咲いて一時にパッと潔く散ってしまうものであるが、菊桜は実に一ヶ月近くも花を維持し、毎年4月上旬から濃い紅の蕾をほころばせ初めて5月10日過ぎてまだ芳郁と香雲をただよわせており、その悠々たる花影はあわただしく散り行く群桜と比べて格段の相違がある。



2019・4・27 後楽園のキクザクラ



2019・4・9 佐藤家キクザクラの蕾



2019・4・19 佐藤家キクザクラの蕾の開きかけ

第二に花弁の数が多く、試みに一花を採って花弁を数えて見ると百枚位は容易に数えられ最も多いのは一花の花弁が実に三百枚を超えるものがある。植物界中で菊とか蓮とかは花弁の多いのを誇っておるが、それでも三百などというのはまれである。八重桜の中の逸品と称する普賢象で精々三十五枚、岡山県下にある宗堂桜は花弁が多いようでも六十枚位しか無い。

菊桜は花の直径三センチ許で余り大きい方では無いのかように充実しておるために花形は球形を呈し学名スフェランタは球花を意味しておる。

第三にこの桜は散り際が大変美事で、一ヶ月の花期を終えると花枝全体がサッと離れ落ちて、他の桜のように一片ずつヒラヒラと散る所謂落花狼藉は全く見られない。その頃に庭に下り立ってみるとただ可憐な薬玉のような球形の花が地に落ち、一陣の風に乗って静かに遊ぶがごとく廻る風情はまた雅趣あるものである。



2019・5・10 六高キクザクラの散り際の様子

第四に菊桜は花中なお多数の雄蕊を残しておる。大ていの八重桜の花は原種は皆一重で、それが雄蕊が花弁に変化したために花弁の数が増加するのであって、そのために花弁の多いものは雄蕊が全部弁花し尽くし、花中にはもう雄蕊は一物も残っていない。

ところが菊桜に於いては中央部には尚少なからぬ雄蕊を残していて、これが黄色で花の中央を彩っているため遠くから見るとあたかも菊の中の黄色のシベの如くに見ゆる。三百にも及ぶ弁花を遂げてその上に未だ多くの余裕を見せておることはただ驚く他はない。

第五に菊桜はどこまでも灌木状で、巨大に肥木するのをみずから戒めておる。

樹齢数百年を経ても別に尊大におごらないで、地味に四方に小枝を出し、乾地でも陽地でも陰地でも、どこでも一応は生育し開花するようである。

桜は古来日本の名木として数々の品種が育成されたけれど菊桜に至って極致に達したとも言える。思うにこの桜は菊の御紋章を描きつゝ宮中に育成せられた所謂御所桜の逸品であったものが故あって池田家の備前に伝わっていた。中世御所は式微し、宮中の桜もこれに随って衰微し菊桜はついに消失した。大正年間に入って桜の研究家であった故三好博士は備前岡山に伝わる菊桜を得て後に宮中に献上した。この原樹は当時の六高教授大渡忠太郎氏が苦心育成したものであった。

順宮様の御降誕は昭和六年で、丁度岡山から菊桜が宮中へおさまった時であったと聞いておる。数々の美点を持ったこの桜は生物学者天皇の御気に召し、たちまち順宮の御紋章（おしるし）に選定遊ばされた。爾来二十年、皇居花蔭亭の前に菊桜は順宮様の御成長と共にスクスクと育ち去る四月二十八日、日本の独立を歌われた天皇陛下の御歌にも

冬すぎて菊桜さく春になれど 母の姿をえ見ぬかなし

と拜して貞明皇后を懐かしました。

大渡教授が苦心育成した菊桜の原樹は永く六高の校庭、武道場の横にあつて高雅な花の気品は六陵健児の胸に迫り、かくて祝福せられた武道部は常に京都戦に宿敵四高と見えて栄冠を得ていたが、昭和二十年六月の空襲に武道場と共に桜もまた烏有に帰した。

私は大正十二年六高に職を奉じ戦前まで生物学教室に居た。植物園を廻る毎に菊桜に接し、当時のその由緒伝承していたため、戦雲濃くなると共に一枝の疎開を思い立ち、岡山県農事試験場の大崎技師の忠言によって浅口郡里庄町の郷里に接木をしたのが現在二間余に成長しておる。

本年四月十四日順宮様が上伊福別所の新居を御覧になるため来岡された節に、天皇陛下は岡山菊桜の原樹に興味を持たれ、徳川侍従が旨を体して採されたが右のように原樹は私の處に継承した形になっていたので十五日私は一枝を携えて岡山特産の室堂桜と共に差し上げた。

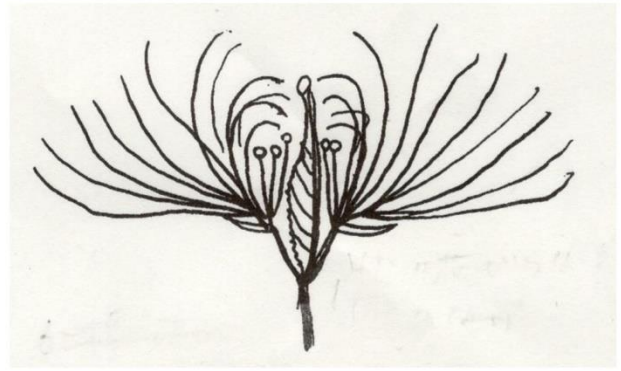
国の象徴であるサクラと皇室の表徴であるキクと、その二つが一緒になったキクザクラはかような数々の特徴を具え、また奇蹟を示した。私はこの菊桜の原樹を岡山菊桜と呼んで永く保存顕彰したいと思う。
(筆者はノートルダム清心大学教授)

菊桜の年表		
明治四〇年	一九〇七	岡山にて奈見、六高教授 大母忠右衛門
大正五年	一九一六	三好博士 菊桜を移植しと記載 （第六回 菊桜の昭和三年一九二八に池田載、その他、各書籍に記述せられた）
昭和六年	一九三一	三好博士より室中へ菊桜の苗を献上 経て順宮陛下内妃より退す（順宮の御印とあり）
昭和一九	一九四〇	岡山六高の原樹を佐木の自宅に 接木して分枝（戦争激しく空襲を蒙り 岡山戦災 原樹焼失）
昭和二〇	一九四二	天皇陛下 平和再興の勲とて 菊桜の御製を 順宮と池田庭より御贈り、陛下 岡山へ菊桜を 池田庭より御贈り 新邸の前に依り 菊桜移植 （湖主より）
昭和二七	一九五二	四回で園作あり 両陛下 岡山へ行幸 後至園に ゆ樟在るその節 念之園の正角に両陛下に有 りてこれ 菊桜より植 現在に至る
昭和二八	一九五三	

佐藤清明の 「菊桜の年表」 メモ



宗堂桜 花卉60枚



宗堂桜のスケッチ (渡辺義行氏画)



操陵のもと春逝かば像



六高菊桜花卉172枚



六高会館前のキクザクラ

2 三好學博士の『菊桜』記事より

『桜』昭和13年(1938)4月 三好學著 富山房発行 の菊桜記事によると

「花卉の数の極めて多くなつたものには菊桜の類がある。菊桜とは菊咲の桜で、古来して居るが、此中に品種が少ない。普通菊桜と称するもの他に小菊桜・鴨(ひよどり)桜・名島桜・数珠掛桜などがあり、いずれもこれに属する。

菊桜は東京では5月の初め頃に咲く。この類の蕾は真紅で甚だ小さいが、それが開くと花の直径が一寸以上になり、淡桃色になる。花の中心には色が濃厚で、極めて小さい花卉の如きものが密集しておる。先に一つの菊桜の花を解剖して調べたところが、花卉の数が百八十六枚あつた。」



鴨桜(ひよどりさくら) ネットより



佐藤家菊桜・2018・4・18

3 三好學博士の論文より

三好學博士は菊桜の論文(独語)を東京帝国大学理科紀要に大正5年(1916)3月10日付に発表した。その内容の一部を抜粋して記載する。

Ⅶ 菊桜

前半略・・・

生息地 岡山の一庭園 開花期 5月初旬

日本名 菊桜

注釈 この非常に珍しい桜は私が1907年初に岡山の大渡教授の好意で、はじめて手に入れた。その後彼は私に花枝を幾度か送ってくれたし、また挿木も届けてくれた。その挿木から、数本の力強い個体が生育し、私の実験園で数年前より豊富な花をつけることに成功した。

この実験植物のお陰で私はこの興味深い桜を身近に観察することが出来た。

濃赤色の厚い円盤状の蕾は普通4月20日頃形成されるが、すぐに開花せず、この時期に若し以後の發育を観察しなくてよければ、小さい堅牢な花を固く結んだまま固定できるであろう。

一週間後に蕾は外側の花卉は伸び切っているのに、内側の花卉は小頭状の円盤花の短いままになっている。そして花が満開になり、実際に菊らしい外観を呈するのは、普通5月の初めである。

この桜の現象は特徴的で、これは花卉の異常な増加による花軸の拡大によるもので、これが後に半球状の花托に変化し、全花卉の付着を可能にする。

花托を見れば表面の中央に花核と花冠着点があり、これが濃淡に色調を与えることになる。

花托中央は、しばしば空洞が形成され、その縁に添い僅かの数の雄蕊が生育する。

空洞内面は小さく容易に剥離しうる乳頭状形成物におおわれて、これは分泌器官と思われる。花托表面の緑の花核と赤い冠と緑の核は、その位置から変形した雄蕊乃至は果葉であろう。核、冠両部は移行して確かな区別はない。

この桜は昔から知られていて、「菊桜」の名で、桜の記述の中に出されておる。

三好學； 日本の山桜：その野生種と栽培種

1916(大正5) 3・10

東京帝国大学理科大学紀要

第34回第1編第136—138頁

4 六高の菊桜

旧第六高等学校を六高と略す。

(1) 六高同窓会会報（以後会報と略す）第3号平成16年（2004）より抜粋
○菊桜に関する考察 S24年理1・2年修了 兒子昌志氏・藤井新太郎氏 記
六高ゆかりの「キクザクラ」

前略 剣道場横のサクラは昭和20年6月の岡山空襲時に被災枯死したが、それ以前に枝を採って接木育成されたものが岡山県里庄町にあり、現存している。

六高生物学助手として大正7年から昭和6年まで在職し（注1）大渡教授の下で働いていた佐藤清明氏は（注2）この「菊桜」の由緒をよく承知していたので、桜に関心を抱いていた岡山県立農事試験場果樹分場の高等官技師大崎守氏の奨めもあって、昭和17年（注3）に里庄町の自宅のサクラに接木して育てたのである。

兒子はこの樹が見事な花をつけているのを本年（平成16年）4月に観察している。

故佐藤清明氏はその後、清心女学校教諭、清心女専教授、ノートルダム清心大学教授、岡大農学部・薬学部講師を歴任し、山陽新聞賞も受賞した県内でもよく知られた植物研究者でもある。従って、難波早苗氏とは旧知の間柄であった。

ところで、以上までは佐藤清明氏の記述と難波早苗氏記述によって述べたのであるが、其の後の行われた「菊桜」の増殖・保存を思い立って、昭和52年の初めに岡山県林業試験場長山田昭雄氏に接木、保存の事を頼み、快諾を得たので、佐藤清明氏へ接木の穂木分与を依頼し、52年3月には「菊桜」の接木がなされた。

そして、六高記念館開設（昭和55年6月7日）にあたって、此の育成苗木が林業試験場に有ることが知れ、それが昭和55年に植えられたのだということになっている。・・・・中略・・・・

林業試験場の接木苗は、六高記念館への植栽に先立って、昭和53年3月には佐藤清明氏宅や岡山県立青少年林業文化センター三徳園に贈られ、更にこの佐藤清明氏宅のうち1本が昭和54年3月に岡大に贈られて本部棟前に植えられたと述べているが、これは記念館開設までは2年もあったし、かなりの苗木が育成されて数量的には余裕があったので、関係者に贈呈されたのだと考えられる。

・・・・中略・・・・

しかし、大渡教授を経て、東大三好教授によって「kikuzakura・菊桜」と命名された「六高ゆかりのキクザクラ」こそ「キクザクラ」の中の「キクザクラ」の本命といえる。

注1 : 同窓会名簿では 大正12年～昭和9年となっている。

注2 : 大渡教授は大正10年転勤しているので共に職場に一緒できてない。

注3 : 佐藤清明氏は昭和19年としている。



六高記念館落成式 昭和55年6月7日
平成25年11月 第六高等学校同窓会報
第12号（2013年）より：菊桜は植樹
されていない。



2019年4月27日の六高記念会館と
会館前の菊桜・右の木が咲いている
満開の菊桜・手前が地蔵川

35 第1全県 2004年(平成16年)4月25日 日曜日

かつて旧制第六高等学校(六高)の校舎があった朝日高(岡山市古京町)の一角で、六高ゆかりのキクザクラが満開を迎えた。たくさんの淡いピンクの花びらをつけ、去り行く春を惜しんでいる。

キクザクラはサトザクラの一種。暗赤色のつぼみだが、花を開くと淡い色に変わる。ソメイヨシノなどと比べると大きく、ポンポンのような花をつけるのが特徴。このキクザクラは元々あった木の「孫」。初代は1900年の六高開校間もなくから植えられていたが、45年の岡山空襲で被災し枯死。OBらが残念がっていたところ、生物教室の助手が保存のため、空襲前に里庄町の自宅に接ぎ木していたことが分かった。

旧校舎跡の朝日高一角に依拠して接ぎ木をもとに苗木を作り、80年に完成した六高記念館前などに植樹。35年ぶりに当時をしのばせるシンボルとして復活した。苗木は、岡山大学や後楽園等にも植えられているが、六高とのゆかりを知る人は少ない。

「六高生群像」の前で、満開を迎えたゆかりのキクザクラ。岡山市古京町、六高記念館前



要点を下記する。

- ・ かつて旧制第六高等学校(六高)の校舎があった朝日高(岡山市古京町)の一角で、六高ゆかりのキクザクラが満開を迎えた。
- ・ たくさんの淡いピンクの花びらをつけ、去り行く春を惜しんでいる。
- ・ キクザクラはサトザクラの一種。暗赤色のつぼみだが、花を開くと淡い色に変わる。ソメイヨシノなどと比べると大きく、ポンポンのような花をつけるのが特徴。
- ・ このキクザクラは元々あった木の「孫」。初代は1900年の六高開校間もなくから植えられていたが、45年の岡山空襲で被災し枯死。OBらが残念がっていたところ、生物教室の助手が保存のため、空襲前に里庄町の自宅に接ぎ木していたことが分かった。県林業試験場(勝央町)に依頼して接ぎ木をもとに苗木を作り、80年に完成した六高記念館前などに植樹。
- ・ 35年ぶりに当時をしのばせるシンボルとして復活した。苗木は、岡山大学や後楽園等にも植えられているが、六高とのゆかりを知る人は少ない。

2008年(平成20年)2月10日 日曜日

「六高ゆかりの「キクザクラ」」

OBが専門家に増殖依頼 14日、6本を植樹

朝日高に咲くキクザクラ 2006年5月




2008年(平成20年)2月10日記事より

昭和55年に朝日高校に6本植えたが多く枯れて、2本残った。後世にキクザクラを伝えようと、故長野士郎知事ら六校OBが勝央町の林木育種センターと樹木医に依頼接ぎ木し、六高OBや学校、育種場の関係者が出席して、校庭に6本を植える。

5-2 六高の現在のキクザクラ

いわゆる六高のキクザクラの経緯は前掲の通りであるが、六高会報に多く記載されており、OBのキクザクラに対する心意気を感じる。

六高同窓会会長をはじめ、関心ある方が多くキクザクラの存続に配慮している。

現在のキクザクラは、地蔵川の西側に4本、六高記念館前に1本、会館裏に2本合計7本存在している。



2018・5・10撮影：地蔵川西の4本



2019・4・27撮影：地蔵川西の4本



2019・4・27撮影：会館前のキクザクラ1本



2019・4・27花弁数172枚

6-1 佐藤家のキクザクラ

昭和19年(1944)岡山市の戦災以前に、里庄町の生家に六高のキクザクラを穂木として接ぎ木したものが、佐藤清明生家の初代のキクザクラである。

このキクザクラは昭和27年(1952)には二間余りの大きさになった。



昭和27年清明生家初代のキクザクラ

初代佐藤清明生家のキクザクラは先生が庭に接ぎ木して育てていた。その菊桜を昭和天皇に、室堂桜も添えて昭和27年4月15日に献上している。

この初代のキクザクラを穂木にして、接ぎ木していたものを、岡山の菊桜として、後に六高等に広がっていった。

岡山県農事試験場等で育成されたものが、岡山県内の各地、後樂園、六高等などに広がって行き、佐藤清明の愛するキクザクラ、岡山のキクザクラと呼んで、永く保存顕彰されていることになった。

六高では六高菊桜として、大切に植樹を重ねながら、大渡教授の育てたキクザクラとして会報に繰り返し掲載し、記録をしている。

清明先生は自宅の庭に初代から、子から孫へと育成され、自宅の建て替えのたびに、植え替えられている。



清明生家の2代目キクザクラ・佐藤公康Dr.撮影

また、初代の孫にあたるキクザクラは井戸の側に育成され井戸の水分を吸収していた関係から大きく育ち、多くの花を咲かせていた。

それを「キクザクラを見る会」がバスを仕立てて、見学に来ていた。



3代目キクザクラ(株のみ残りわき芽あり) 4代目キクザクラ 2017・4・27撮影
平成10年の春花をつけず枯れた。

3代目キクザクラは残念ながら枯れたが、佐藤清明先生が話されているように菊桜は土地を選び、こまめに手入れしなければならない。

4代目も大切に育てる意味で、樹勢回復作業を計画した。

6-2 佐藤家キクザクラの樹勢回復

4代目キクザクラが平成28年(2017)9月10日樹木医の國忠征美氏に依頼して、先ず菊桜の植えている土地の改良作業をし、木を元気にする手当てをした。



この後平成29年(2018)2月11日樹勢回復の後、湯の池側日当たりのよい所へ移植作業をする。

木を掘りあげて見ると、2個のガンシュが有り、それを除去する。

木炭を入れ、植えつけた後に更に木炭を撒いて、木の根に適度の湿度と根の活性化を保つ作業をする。

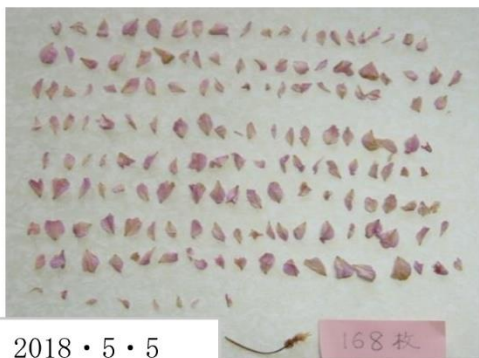


植え替え作業

2個のガンシュを抱えていた。



2018・4・18 移植後の4月の開花



2018・5・5
花弁数168枚

2019・4・27
満開の撮影

2019・5・1
花弁数
212枚



7-1 後楽園のキクザクラ
 ①山陽新聞記事より 昭和28年10月22日

山 陽 新 聞

**両陛下御來岡
記念植樹行**

天皇、皇后陛下は二十一日市内後楽園鶴鳴館に御一泊、二十一日は園内御臨席のため四園に向われたが、お帰りの二十六、七両日再び岡山へお立ち寄りになり、池田氏邸など訪問されるが、皇では既報のとおり両陛下の御來岡を記念して



昭和28年10月21日御宿舎になった鶴鳴館広場北側につぎ木した2年生4尺ほどのキクザクラ2本と5年生の5尺ほどのモミ2本を植樹した。

②山陽新聞記事より 昭和28年10月28日夕刊

**キクザクラを
記念のお手植**

四園から岡山に帰られて鶴鳴館でお寝みになった両陛下は二十七日午前七時少し前にはお疲れのこ様子もなくお元気で御起床、お側の侍従に「きようはともいゝお太氣でいゝね」ときよようの池田邸御訪問を喜ばれておられた。昨夜池田隆政氏夫妻がお訪ねした時から両陛下はこの日の天気を気にしておられたのだった。

両陛下は八時すぎいつもの通りの軽い朝食をとられ、同五十分ごろ鶴鳴館東北隅に竹の生垣でしつらえた二ヶ所に記念のお手植が始められた。ノートルダム聖心大学、佐藤教授が二年間にわたり岡山市東山苗園で苦心育成したツギ木二年生のキクザクラを両陛下は一本ずつ植えられた。真新しいオケからヒシヤクで水をかけられ名園に名残りを惜しまれた。

前略・・・両陛下は8時すぎいつもの通りの軽い朝食をとられ、同50分ごろ鶴鳴館東北隅に竹の生垣でしつらえた二ヶ所に記念の御手植が始められた。ノートルダム清心大学、佐藤教授が二年間にわたり岡山市東山苗園で苦心育成したツギ木二年生のキクザクラを両陛下は一本ずつ植えられた。真新しいオケからヒシヤクで水をかけられ名園に名残りを惜しまれた。



昭和28年、両陛下園体へお成りの際後楽園にてお手植えなされた菊桜。右は天皇、左は皇后がお手植えの菊桜。かがんでいるのが筆者。



昭和51年4月刊『植物手帳』佐藤清明記 昭和52年頃の後楽園菊桜・佐藤公康Dr撮影

7-2 後樂園のキクザクラ（現在）



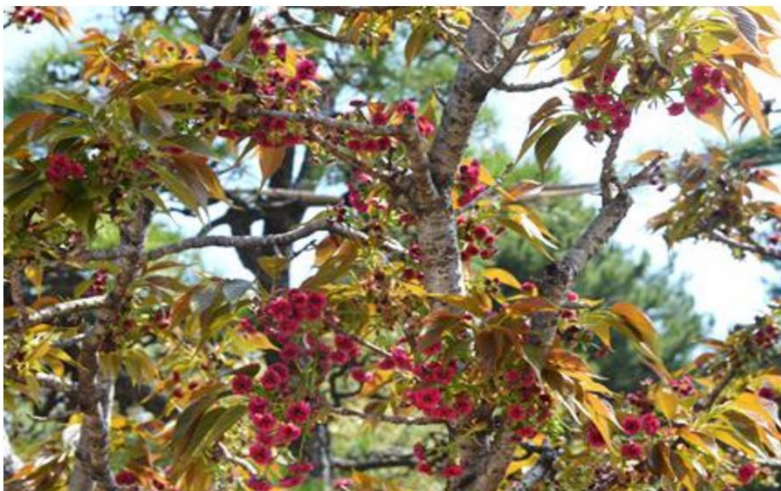
2019・4・27撮影



2019・4・27撮影



2019・4・27花卉の数 288枚



2018・4・10後樂園菊桜の蕾



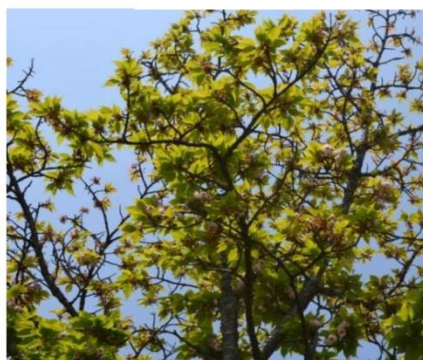
8 後楽園の旭川土手キクザクラ

平成25年にケア・フレンズ岡山の20周年記念に植樹した菊桜のようだ。
看板は「六高菊」となっている。植樹者は京都の佐野藤右衛門である。

この六高菊は岡山県のどこかの菊桜から接木したもので、平成25年の時40年間育てられたとなっているので、昭和47年ごろ接木したものと考えられる。



2019・4・27 六高菊の花（平成25年植樹）



2018・4・10 後楽園の旭川土手菊桜



2019・4・27 六高菊

9-1 岡山大学のキクザクラ その1

岡山大学のキクザクラの看板に次のように記されている。

菊桜（キクザクラ）

「桜は古来日本の名花として 数多くの品種がある。この菊桜は御所桜の中の逸品で、桜花の美しさの極致に達したものである。

中世 この名花も消失したとされていたところ 昭和初期 旧第六高等学校（旧六高）大渡忠太郎教授によって 備前に伝わっていたものが見つけられ、三好学博士により菊桜であると確認された。（別名六高菊桜とも言う）母樹は 旧第六高等学校の武道場の横にあって春には高雅な花を開いていたが、昭和20年の空襲により烏有に帰した。

幸いに 一枝が 里庄の地で 本学佐藤清明講師により 継承されていたものを、同講師から寄贈を受け、昭和54年3月17日に植樹した。

なお本樹は旧六高にあったものの孫樹に当たる。」

平成28年6月12日に確認した時は大分樹が弱っていた。つまり岡山大学農学部旧正門にあった樹が岡大管理棟前に移転されていたものである。



2017・6・12の時点での状態



2018・7・9樹勢回復作業

この菊桜を樹勢回復すべく佐藤清明資料保存会が菊桜基金を創設し、それにより樹木医の國忠征美氏に作業依頼した。それまでに岡大総務・企画部及び前岡大副学長沖陽子先生（現県立大学長）の助言を頂き、手続きを進め実現した。



2018・7・9
キクザクラの樹勢回復
作用の流れ

9-2 岡山大学のキクザクラ その2

岡山大学のキクザクラは植えている場所が湿気も有り、環境的に十分でない。従って、花の色も薄く花の付き方も多くなく、今後の管理が大切だ。

沖縄立大学長の見解でも「菊桜も雑草と同様に、環境によって形態や花弁色に異変が生じやすい。」との指導があった。

谷口先生、沖学長からの情報取得については顧問の土岐隆信氏が連絡頂いている。

そのため専門的知識を得ることが出来、有難いことである。



2019・2・15 岡大キクザクラ



2019・4・21 岡山大学谷口抄子先生撮影



2019・4・27 岡大キクザクラ



2019・4・27 花卉数 128枚



2019・12・3 施肥状況
國忠氏、撮影は佐藤健治氏
稲田多佳子氏、土岐隆信氏

2020年4月28日頃の岡大キクザクラ満開時には
花数が増え色もピンクが濃くなりうると期待している。

10 原田勝氏の水島倉庫横のキクザクラ

平成に入って間もなく、里庄町在住であった佐藤虎太郎氏の斡旋で、佐藤清明先生宅のキクザクラ（3代目）の穂木から接ぎ木をして、水島の自宅倉庫横に育成していた。倉庫横でキクザクラにとって、日当たりを良くする工夫をした結果横にたわませて育てたところ、強くても良く成長し30年経過しても花は多く付き元気だ。



2010・4・29原田勝氏
撮影 原田家キクザクラ



2019・4・27撮影

2019・4・27花卉数250枚



1 1-1 高梁城南高校のキクザクラ・徳山容氏の資料及撮影資料より

高梁城南高校に植樹された経緯について、同窓会員の三峰三郎氏（松山高11期）がまとめられている記録を参考に記す。

岡山県立高梁工業高等学校の『校誌』に「菊桜」が使用され、校誌発刊に寄せて、多賀善也校長が巻頭言に次のように寄稿されている。

【桜は、天や地に光があふれる春、それぞれが決意も新たにすの出発時期の花でありますから、それを誌名に取り入れることは、50周年を機に本校の一層の発展と新しい歴史の創造にふさわしいものと考えます。桜の中でも本校にある菊桜は、サトザクラの一種であり、県下では後樂園、池田邸、旧第六高等学校、三徳園、奈義町浅野家（町指定天然記念物）にある程度の、花卉が160～200枚もある非常に珍しい桜であります。

この菊桜の親木は、旧松山小学校の同窓生が校庭に植えた記念樹であり、その松山小学校が高梁南小学校となり、高梁南小学校も高梁小学校に統合され、その跡地が現在本校の運動場となっております。昭和50年に本校の三峰三郎教諭が、その菊桜の老木から出ていた「ひこばえ」を、本校校庭に移植して育ててきたものであります。老木も今は亡くなっていますので、本校が現在まで引き継いできた「松山」ゆかりの貴重な菊桜と言えます。

校誌の発刊は・・・中略・・・復刊に相当するとも言える校誌『菊桜』をいつの時代にあっても、「志は高く、実行は足元から」の精神で進める教育活動の証として、ますます充実したものにしていかなければならないと考えます。】



2019・4・30 高梁城南高校校庭の菊桜・徳山 容氏撮影



昭和50年
(1975)
旧高梁南
小校庭の
老木のひ
こばえを
取木した
「菊桜」
の碑



11-2 高梁市中央公園のキクザクラ 徳山 容氏の資料と写真撮影より
徳山容氏の写真以外情報不足のため、次の高梁市史より引用したが、菊桜が市史に掲載される例は見ないので、あえて記した。

『増補版高梁市史 上巻』 平成16年9月30日刊より
第四節 特色のある動植物 環境植物

環境としての植生の概況として 「市域の植物相を細かく調査すると、地域によって多少の差異が見られるが、備北地区一般の植物については、大正時代から吉野善介による詳細な調査があり、その成果は『備中植物誌』にまとめられている。またその資料となる標本は、現在高梁市図書館に保存されている。・後略・」
忘れられていく貴重な植物として

- ①オクマンダナシ (バラ科) ・ ・ 吉野善介氏が大正4年 (1915) に標本を採集。
- ②キギナツナシ (バラ科) ・ ・ 吉野が昭和18年10月9日採集したものが保存。
- ③キクザクラ (バラ科) ・ ・ 旧南小学校の運動場の端へ植えられているものが一株残っており、大きいものは幹の根元直径30cm、高さ5mぐらいある。樹皮は黒褐色で花色は淡紅色である。八重咲きの品種でつぼみのときは、濃紅色をしており、花弁は緑色で長く、花は下垂する。開花期は四月下旬頃である。
古くは金沢市の兼六園に栽培されているものや旧第六高等学校の校庭にあったものと同じ品種であるといわれている。三好学博士は昭和3年に植物雑誌に本種について発表された。
- ④チョウセンヤマツツジ (ヤマツツジ科)
- ⑤シラガブドウ (ブドウ科) ・ ・ 大正3年に牧野富太郎博士が備中広瀬で採集。
- ⑥サクラソウ (サクラソウ科)
- ⑦フキヤミツバ (セリ科)
- ⑧アオイカズラ (ツユクサ科)
- ⑨タカハシナンテンショウ (サトイモ科) ・ ・ 難波早苗氏が臥牛山で採集。
- ⑩チュウゴクホトトギス (ユリ科)



2019. 4. 30

昭和27年、旧高梁南小学校の校庭にあった桜を難波早苗氏が見つけ、吉野善介氏に持参したところ、キクザクラであることが判明する。珍しい、由緒ある桜であることを伝え、大事に守り育てられていた。

その後、昭和45年、旧高梁南小学校が北小学校と統合され、グラウンド整地の際に伐採されてしまった。数年後、その1本の枯れかけた根元から芽吹いた蘂（ひこばえ）を見つけ、高梁工業高校（現高梁城南高校）に移植し、育苗された。

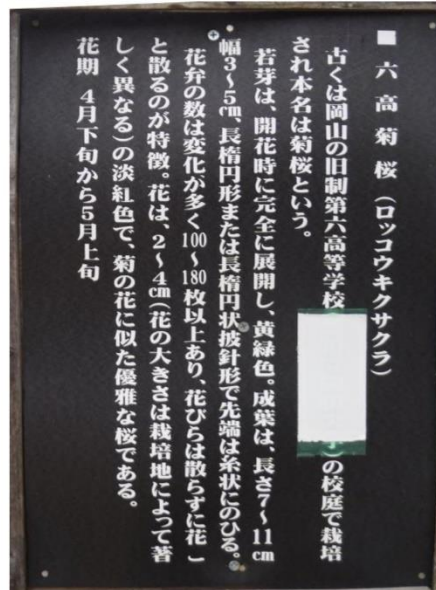


その内の3本が成長していた。キクザクラが伐採されたことを知った「高梁不老長寿会」のメンバーだった旧松山小学校の卒業生が思い出に、貴重な桜であることを知った高梁の前教育長が高梁工業高校からそれぞれ譲り受けて寄贈し、旧高梁北小学校跡地（現高梁中央公園）に植樹された。

12 たけべの森のキクザクラ 佐藤泰徳氏資料と写真撮影

たけべの森のキクザクラは看板にあるように六高菊桜のようである。いつの年代に六高菊桜の穂木を採っていたかわからない。樹木医の國忠氏の説明によると、京都の佐野藤右衛門による接ぎ木のキクザクラのようだ。たけべの森の説明を受けて確認したいもの。

樹は大きいですが花が少ないように見えるので後樂園の外側の旭川土手の六高菊に似ている。



2019・4・22 たけべの森のキクザクラ 佐藤泰徳氏撮影

1 3 高岡神社のキクザクラ

平成31年4月21日浅口歴史探訪会（40名参加）が高岡神社を訪問するに当たり、前もって総代長の生実正直氏が境内整理中、浅口市歴史探訪会の林富士男会長と打ち合わせが出来、境内のキクザクラも見学することになった。しかも30年前に佐藤清明先生が御手植えのキクザクラであることが判明。

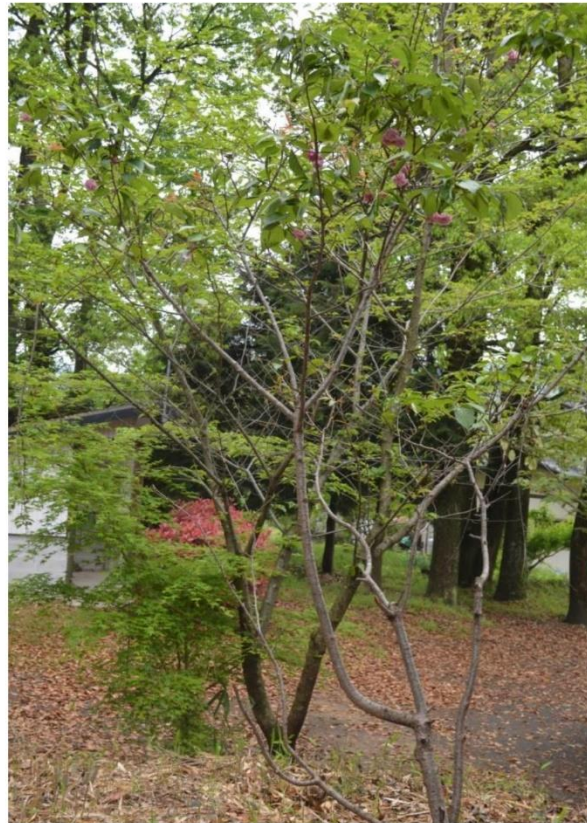
ただ、木が弱っているので、植え替えをし、樹勢回復するための作業を予定している。



2019・4・21浅口探訪会のキクザクラ見学・佐藤健治氏撮影



2019・5・1花卉125枚



2019・4・29高岡神社キクザクラ

1 4-1 奈義町浅野家のキクザクラ その1

2018・4・25と2019・4・26浅野家のキクザクラを訪問撮影したところ佐藤家や六高キクザクラと違って樹が大きく、花の色は薄紅色である。

樹木医の國忠氏はこの浅野家のキクザクラは北陸系のキクザクラと。

『日本樹木医会ニュース115号』2018/3/31 も菊桜記事に「富山県中央植物園を訪れた際、能登の山中で発見された菊咲のサクラ類の展示栽培を見ると、種類数が多いと感じた。実際、同植物園の大原隆明氏による北陸地方の栽培品種では、全国の菊咲の31品種を紹介しており、その3分の1が能登半島とその周辺で発見されたということである。

菊咲のサクラ類には、栽培品種として作出されたものと山中や社寺などで発見されたものの2つのタイプがある。能登半島と周辺には後者のタイプが多く、とりわけヤマザクラ系が目立つ。」

この記事の通り北陸系の菊桜は山中に発生しているようだ。

浅野家のキクザクラは『東美作路 名木百選』岡山県勝英地方振興局2000掲載の記事で紹介されている。

「菊咲きの花が珍しい名木 浅野家の庭にあり旧陸軍の演習場として日本原が開設される時に、兵舎の予定地にあったサクラが珍しいということで現在の所有者の祖父がこの地に移転したものである。

花びらが80～120枚くらいが菊の花に似ていることからこの名がつけられている。地上90cmあたりで、三又に分かれ、花の寿命は比較的長い。

所在地/奈義町上町川字御所野尾谷1365-1

所有者/浅野英夫

樹齡/ 190年

樹高/ 8m

周囲/ 1.5m

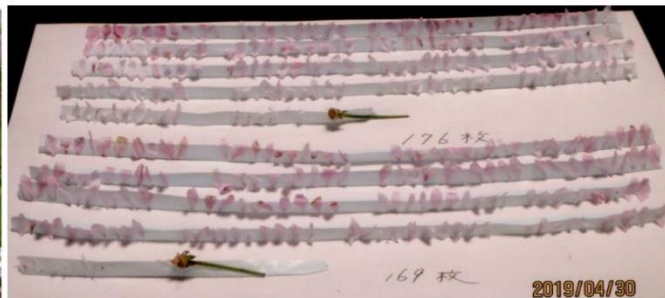
町指定天然記念物 S 54・1. 1



2018・4・25浅野家の菊桜（2018年は早咲）



浅野家の額に掲載された菊桜の下、縁台の上で囲碁を楽しむ様子



2019・4・28奈義町のキクザクラ・花卉数169枚・176枚・安藤安江氏調査

1 4-2 奈義町浅野家のキクザクラ その2

佐藤清明先生が奈義町出身の井戸泰（ゆたか）氏の調査や天然記念物調査によく訪問されていたが、菊桜については触れていないようだ。安藤安江氏や浅野家の方に菊桜について案内頂いた。2年間訪問した結果2018年4月は早咲であったが2019年4月28日は好機で見事なキクザクラの花を観察できた。



2019・4・28 奈義町浅野家キクザクラ

15 里庄町歴史民俗資料館の前庭のキクザクラの植樹

令和元年12月3日に里庄町歴史民俗資料館の前庭にキクザクラの接ぎ木を2本植樹した。此の接ぎ木の穂木は佐藤清明生家の4代目キクザクラで、樹木医の國忠征美氏の苗園で2年育てられたものである。



2019・8・5 國忠苗園のキクザクラ苗
高橋達雄氏撮影（久米南町の苗園で）

2019・12・3 苗の整枝



2019・12・3 キクザクラ植樹の撮影は高橋達雄氏

参考資料

- ・『博物同好会』昭和27年10月発行
「岡山の菊桜」佐藤清明著
- ・『植物手帳』昭和51年10月発行
「岡山にある菊桜」佐藤清明著
- ・『櫻』昭和13年4月8日発行
富山房 三好 學著
- ・『岡山の楷の木と菊桜』
～難波早苗と講演録から分かったこと～
稲田多佳子 (里庄歴史勉強会資料)
- ・第六高等学校 同窓会報 第7号 2008年8月
- ・第六高等学校 同窓会報 第12号 2013年11月
- ・山陽新聞 平成16年(2004)4月25日発刊
- ・山陽新聞 平成20年(2008)2月10日発刊
- ・山陽新聞 昭和28年(1953)10月22日発刊
- ・山陽新聞夕刊 昭和28年10月28日
- ・岡山県立高梁工業高等学校 『校誌』
- ・高梁公民館・高梁コミュニティだより 6月第194号
高梁公民館発行 平成4年6月15日刊
- ・増補版高梁市史 上巻 昭和16年9月30日刊
- ・『東美作路 名木百選』
岡山県勝英地方振興局2000掲載
- ・日本樹木医会ニュース 115号 2018年3月31日付
- ・岡山県天然記念物Ⅰ 渡辺義行著 A④宗堂の桜
- ・インターネットより (宗堂桜・鴨桜)

岡山県下のキクザクラの掲載地名

- | | | |
|----|------------|-------------|
| 1 | 第六高等学校記念館 | 岡山市古京町 |
| 2 | 佐藤清明家 | 浅口郡里庄町里見 |
| 3 | 後楽園 | 岡山市北区後楽園 |
| 4 | 岡山大学 | 岡山市北区津島 |
| 5 | 原田家倉庫 | 倉敷市松江3丁目 |
| 6 | 高梁城南高校 | 高梁市原田北 |
| 7 | 高梁市中央公園 | 高梁市柿木町 |
| 8 | たけべの森 | 岡山市北区建部町田子地 |
| 9 | 高岡神社 | 浅口郡里庄町里見 |
| 10 | 奈義町浅野家 | 勝田郡奈義町上町川 |
| 11 | 里庄町歴史民俗資料館 | 浅口郡里庄町新庄 |

表表紙のキクザクラの花の写真は原田 勝氏撮影。

おわりに

令和2年2月、里庄町立図書館企画の「清明を読む会」で、「岡山県下のキクザクラについて」をテーマで発表することになりました。

そのレジメを作成中、岡山県下のキクザクラをレポートするに当たり、植物の専門的知識不足のため文言だけではキクザクラについて表現しきれないので、写真等を使用して印刷した方がベターだと感じました。

清明研究会発足以前からキクザクラにめぐり合い足掛け4年になります。

清明先生の菊桜に対する熱い思いが伝わり、保存に取り組むべきと感じたのは明治終期に大渡忠太郎教授が菊桜を六高に植樹した後、太平洋戦争の戦禍を経て終戦直前清明先生が里庄の地に疎開、昭和28年昭和天皇の後楽園へ植樹、28年池田邸植樹、昭和55年六高会館植樹以来、岡大植樹等を経て令和元年新しく里庄町へ植樹と110年の歴史ドラマを思うに、清明先生の誠を感じ取れます。この様に多くの方に「岡山のキクザクラ」の魅力を享受して頂きたいと思います。

編集にあたって、菊桜とキクザクラを混同して使用しているところがあります。

それは六高会報や佐藤清明論文等には菊桜を多く使用されているため、その部分は菊桜を使用することにしました。

佐藤清明資料は勿論ご子息の公康Dr.資料も多く菊桜を使用しています。

佐藤清明資料保存会のメンバーの方や六高会館の方々、岡山大学関係者、及び樹木医の國忠征美氏、原田勝氏、奈義町の安藤様・浅野様等の御協力の賜物と感謝致しております。

岡山県下のキクザクラの育成されている地域を11か所取り上げましたが、実はまだ多くあると感じています。

清明先生がお手植えの池田厚子様邸宅庭は勿論ですが、半田山植物園にもキクザクラの株が残っており植樹する可能性があります。

三徳園には既に切られて消失していても、その後植樹するよう努められている情報も有ります。

佐藤清明先生が「誉れの菊桜」と言われている通り、六高の菊桜を戦禍から昭和19年里庄の地に救出後、岡山県内に広がっています。

その意味で「菊桜」は佐藤清明資料保存会にとって、重要なキーワードであり、今後更に研究成果が求められると思います。

高梁市のキクザクラは高梁市史に掲載され、菊桜の石碑・看板もあり大切にされていますので、そのルーツを調べる楽しみがあります。

また、今回は取り上げなかったが、清明先生と共に渡辺義行先生が調査研究されている、宗堂桜の魅力があります。

この様にキクザクラ情報の収集を続け、現存するキクザクラの成長の観察を続けたいと思います。

このレポートの内容に、誤りや適当でない表現等すべて編集者の責任です。

最後に里庄町当局と里庄町立図書館・地域の皆様・佐藤清明資料保存会の皆様のご理解とご支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

佐藤清明顕彰特設サイト



佐藤清明資料保存会
第5回「清明を読む会」

発行日 令和2年2月15日
発行者 佐藤清明資料保存会
副会長 生宗脩一